

製品名: ADK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06638**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	ADK
別名	ADK; Adenosine kinase; AK; Adenosine 5'-phosphotransferase
遺伝子 ID	132.0
SwissProt ID	P55263
免疫原	抗血清はヒト ADK 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 1-50

背景

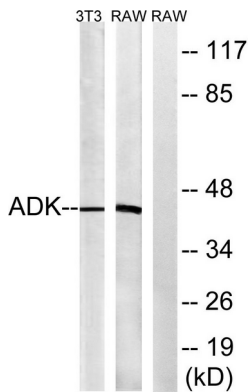
この遺伝子は、ATP からアデノシンへの γ -リン酸の転移を触媒する酵素であり、それによって細胞外アデノシンと細胞内のアデニンヌクレオチドの濃度の調節因子として機能します。アデノシンは、心血管系、神経系、呼吸器系、免疫系に広範な影響を及ぼし、酵

素の阻害剤は、血管内アデノシン濃度を上昇させ、抗炎症剤として作用する上で重要な薬理学的役割を果たす可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011年1月],触媒活性: $ATP + \text{アデノシン} = ADP + AMP$ 。補因子: サブユニットあたり3つのマグネシウムイオンを結合します。機能: ATP依存性リン酸化アデノシンおよび他の関連ヌクレオチド類似体を一リン酸誘導体にします。細胞外アデノシンおよび細胞内アデニンヌクレオチドの濃度の潜在的な調節因子として機能します。経路: プリン代謝;サルベージ経路によるAMP生成; アデノシンからのAMP: ステップ1/1。類似性: 糖鎖キナーゼ pfkBファミリーに属する。サブユニット: モノマー。組織特異性: 広く発現。胎盤、肝臓、筋肉、腎臓で最も高い濃度を示す。

研究分野

プリン代謝

画像データ



ADK抗体を用いたRAW264.7細胞およびNIH/3T3細胞のライゼートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。